

景気動向調査

(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)

2019年1～6月期

調査概要

調査時期	2019年8月1日～同8月31日
調査対象時期	(当期):2019年1月～同6月 (次期):2019年7月～同12月
調査対象企業	一般商工業者80社(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)
有効回答率	60.0%
調査方法	郵送によるアンケート方式
調査内容	①業界景気など、自社景況の実績と次期予測 ②経営上の課題 ③自由記述(業界内での話題や困りごと等)

1.【設問1】集計結果

—B.S.I値で見る業種別景気動向—

※B.S.I値 とは

- 「Business Survey Index(ビジネス・サーベイ・インデックス)」の略で、景況判断指数のひとつ
- 下記の計算式で算出された数値が、プラスであれば景気に対する判断は上向き、マイナスであれば下向きと判断する

※(「上昇:好調の要素」-「下降:不調の要素」)÷2

最大値はプラスマイナスいずれも「50」となる

質問事項

以下の項目について、当期実績および次期予測を伺います。選択肢から該当するものを選び解答欄にご記入ください。

	項目	回答欄	
		当期実績	次期予測
1	国内景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
2	貴業界景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
3	貴社 売上について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
4	貴社 営業利益について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
5	貴社 製（商）品在庫について 1. 過少 2. やや過少 3. 不変 4. やや過多 5. 過多		
6	貴社 資金繰りにについて 1. 容易 2. やや容易 3. 不変 4. やや困難 5. 困難		
7	貴社 設備投資について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		

(1) 国内景気について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-19.3	-21.4	-22.7	-18.8	-14.3
※前回予測との比較	(-4.0)	(-3.2)	(-6.1)	(-6.3)	(-0.4)
次期予測(2019年7月～12月)	-27.8	-21.4	-22.7	-31.3	-35.7
※当期実績との比較	(-8.5)	(0.0)	(0.0)	(-12.5)	(-21.4)

(当期実績)

平均値: B. S. I値-19.3ポイントを記録。前回予測比-4.0ポイントとなった。

業種別: 飲食業、サービス業でB. S. I値-20.0ポイントを下回る結果に。

(次期予測)

平均値: 当期比-27.8ポイントと、数値を大きく落とした。

業種別: 建設業のB. S. I値が-35.7ポイントと、当期比で-21.4ポイントとなり、悪化の予測となった。

(2) 業界景気について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-30.6	-35.7	-27.3	-34.4	-25.0
※前回予測との比較	(-8.9)	(-22.1)	(2.7)	(-13.5)	(-2.8)
次期予測(2019年7月～12月)	-38.0	-35.7	-36.4	-40.6	-39.3
※当期実績との比較	(-7.4)	(0.0)	(-9.1)	(-6.3)	(-14.3)

(当期実績)

平均値: B. S. I値-30.6ポイントを記録。前回予測比-8.9ポイントとなった。

業種別: 各業界でB. S. I値そのものが大きく落込んでおり、景気の低迷がうかがえる。

(次期予測)

平均値: 当期比-7.4ポイントと、さらに落ち込む予測となった。

業種別: 建設業のB. S. I値が-39.3ポイントと、当期比で-14.3ポイントとなり、悪化の予測となった。

(3) 売上について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-19.9	-28.6	-4.5	-25.0	-21.4
※前回予測との比較	(-5.4)	(-10.4)	(8.8)	(-12.5)	(-7.5)
次期予測(2019年7月～12月)	-24.4	-28.6	-22.7	-25.0	-21.4
※当期実績との比較	(-4.5)	(0.0)	(-18.2)	(0.0)	(0.0)

(当期実績)

平均値: B. S. I値 -19.9ポイントを記録。前回予測比 -5.4ポイントとなった。

業種別: サービス業が前回予測比 8.8ポイントと、改善の傾向にある。

(次期予測)

平均値: 当期比 -4.5ポイントと、少々悪化の予測となった。

業種別: サービス業が当期比 -18.2ポイントと、大きく落ち込む予測となった。

(4) 営業利益について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-20.7	-28.6	-18.2	-21.9	-14.3
※前回予測との比較	(-6.4)	(-5.8)	(-1.5)	(-9.4)	(-8.7)
次期予測(2019年7月～12月)	-24.9	-21.4	-31.8	-25.0	-21.4
※当期実績との比較	(-4.2)	(7.1)	(-13.6)	(-3.1)	(-7.1)

(当期実績)

平均値: B. S. I値-20.7ポイントを記録。前回予測比-6.4ポイントとなった。

業種別: 飲食業はB. S. I値-28.6ポイントと、大きく数値を落としている。

(次期実績)

平均値: 当期比-4.2ポイントと、若干数値を落とす結果となった。

業種別: 飲食業では改善の予測となる一方で、各業種のB. S. I値そのものが大きく落ち込んでいる。

(5) 製(商)品在庫について

(+:在庫過少 -:在庫過多)

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	2.3	-7.1	0.0	9.4	7.1
※前回予測との比較	(-6.1)	(-25.3)	(-5.0)	(-1.0)	(7.1)
次期予測(2019年7月～12月)	2.7	-7.1	4.5	6.3	7.1
※当期実績との比較	(0.4)	(0.0)	(4.5)	(-3.1)	(0.0)

(当期実績)

平均値: B. S. I値2.3ポイントを記録。前期比-6.1ポイントとなった。

業種別: 飲食業が前期比-7.1、前回予測値から-25.3ポイントと、大きく数値を落としている(在庫過多)。

(次期実績)

平均値: 当期比0.4ポイントとなり、大きな変化はない見込み。

業種別: 各業種、現状とあまり大きな変化はない予測に。

(6) 資金繰りについて

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-3.8	-7.1	-4.5	0.0	-3.6
※前回予測との比較	(8.0)	(6.5)	(10.2)	(10.4)	(4.8)
次期予測(2019年7月～12月)	-7.0	-7.1	0.0	-3.1	-17.9
※当期実績との比較	(-3.2)	(0.0)	(4.5)	(-3.1)	(-14.3)

(当期実績)

平均値: B. S. I値-3.8ポイントを記録。前期比8.0ポイントとなった。

業種別: 各業種で数値が改善傾向。

(次期実績)

平均値: 当期比-3.2ポイントと、若干落込む予測となった。

業種別: 建設業が当期比-14.3ポイントと、大きく数値を落とした。

(7) 設備投資について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(2019年1月～6月)	-4.2	-7.1	-13.6	-3.1	7.1
※前回予測との比較	(6.4)	(-2.6)	(11.4)	(-5.2)	(21.8)
次期予測(2019年7月～12月)	-9.9	-7.1	-22.7	-6.3	-3.6
※当期実績との比較	(-5.7)	(0.0)	(-9.1)	(-3.1)	(-10.7)

(当期実績)

平均値: B. S. I値-4.2ポイントを記録。前期比6.4ポイントとなった。

業種別: 各業種数値を落としているが、特にサービス業は前回予測比-22.7ポイントと、苦戦している。

(次期実績)

平均値: 当期比-5.7ポイントと、落ち込む予測となった。

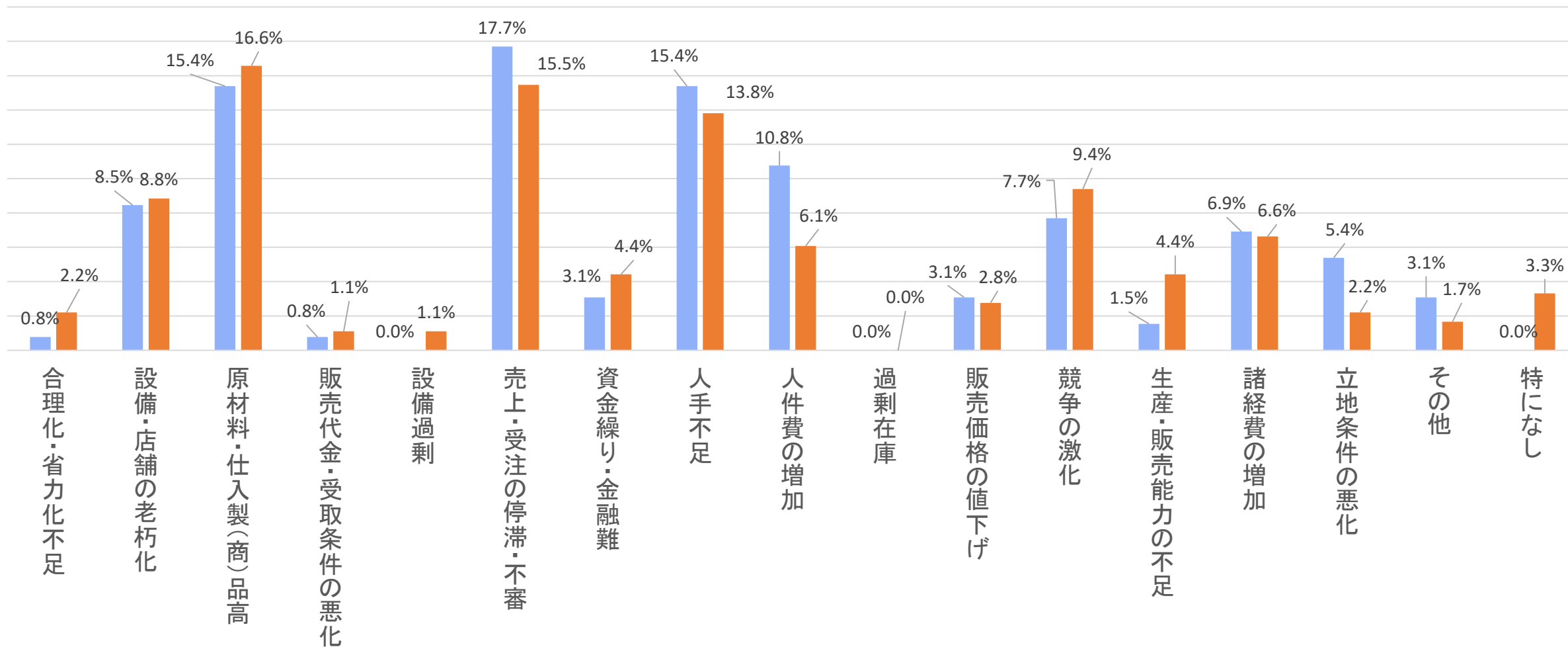
業種別: 当期比で、飲食業に数値の変化はないが、その他業種では悪化予測となった。

2.【設問2】集計結果

—業種別、経営上の問題点—

(1) 全体結果 (当期数値 前期数値)

2019年1～6月 経営上の課題



(2) 業界別結果 (今回上位3項目 前回上位3項目)

	合理化・省力化不足	設備・店舗の老朽化	原材料・仕入製(商)品高	販売代金・受取条件の悪化	設備過剰	売上・受注の停滞・不振	資金繰り・金融難	人手不足	人件費の増加	過剰在庫	販売価格の値下げ	競争の激化	生産・販売能力の不足	諸経費の増加	立地条件の悪化	その他	特になし
飲食業	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	14.3%	4.8%	23.8%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
※前期比	0.0%	-7.7%	6.4%	0.0%	0.0%	6.6%	0.9%	4.6%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	-15.4%	0.0%	-3.8%	-7.7%
サービス業	0.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%	12.0%	4.0%	16.0%	24.0%	0.0%	4.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%
※前期比	-2.9%	7.2%	-4.8%	-2.9%	0.0%	9.1%	4.0%	-4.6%	9.3%	0.0%	4.0%	2.1%	-2.9%	-3.8%	-5.9%	-1.9%	-5.9%
卸・小売業	0.0%	13.3%	17.8%	0.0%	0.0%	22.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	2.2%	13.3%	15.6%	6.7%	0.0%
※前期比	0.0%	4.6%	0.4%	-2.2%	0.0%	-3.9%	0.0%	-2.1%	0.0%	0.0%	-4.3%	-4.3%	-2.1%	4.6%	9.0%	4.5%	-4.3%
建設業	2.4%	2.4%	9.5%	2.4%	0.0%	16.7%	2.4%	26.2%	9.5%	0.0%	4.8%	19.0%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
※前期比	-0.1%	-0.1%	-5.1%	2.4%	0.0%	6.9%	-0.1%	-0.6%	-2.7%	0.0%	-2.6%	11.7%	-2.5%	-7.4%	0.0%	0.0%	0.0%

(3) 特記事項①(飲食業、サービス業)

<飲食業>

- ・前回上位3項目のうち「諸経費の増加(0.0%:前期比15.4%減)」が改善
- ・一方で「諸経費の増加(19.0%:前期比11.4%増)」が大幅増となっている

<サービス業>

- ・前回上位3項目のうち「人手不足(16.0%:前期比4.6%減)」、「諸経費の増加(8.0%:前期比3.8%減)」が改善
- ・一方で「人件費の増加(24.0%:前期比9.3%増)」、「設備・店舗の老朽化(11.8%:前期比5.8%増)」の2項目が増加した。また「売上・受注の停滞・不振(22.2%:前期比9.1%増)」も数値を伸ばした

(3) 特記事項②(卸・小売業、建設業)

<卸・小売業>

- ・他業界では「人手不足」が課題の上位にあがったが、卸・小売業では**2.2%**と低い位置にあった
- ・一方で「**立地条件の悪化(15.6%:前期比9.0%増)**」が大幅増となっており「**設備・店舗の老朽化**」・「**諸経費の増加**」がともに**13.0%:前期比4.6%増**と、こちらも数値を伸ばす結果となった

<建設業>

- ・前回上位3項目のうち「**原材料・仕入製(商)品高**」と「**人件費の増加**」がともに**(9.5%:前期比5.1%減)**と数値を落とした
- ・「**人手不足(26.2%:前期比0.6%減)**」が高い位置で推移する一方、「**競争の激化(19.0%:前期比11.7%増)**」の数値上昇が目立つ

3.【設問3】寄せられた声

—自由記述—

自由記述(業界内での話題や困りごとなどなんでも)

<税法改正>

- ・客離れ、売上の低下を懸念(サービス)
- ・諸経費の増加が苦しい(卸・小売)
- ・軽減税率、インボイス方式への対応が難しい。零細企業にはとても苦しく、存続の危機(卸・小売業)

<社会>

- ・スタッフの高齢化による生産性の低下(卸・小売)
- ・人口減少が売上、雇用面で響いている(サービス)

<経営>

- ・設備の老化に懸念(卸・小売)(建設)
- ・人通りが少なく売上に影響してきている
人口減少、立地条件の悪化(卸・小売業)
- ・求人広告費は増加も、応募がなく人手不足

(建設)

<業界内>

- ・低料金店の増加(サービス)
- ・業界全体で高齢化が進む一方、若手が入ってこない(建設)
- ・オリンピック特需が落ち着いたあとの受注数に不安をおぼえている(建設)